【論考】

Language exchange を活用した学生交流を促す取り組み

-プログラムの運営と参加学生の声を中心に-

Introduction to the Programme Encouraging Students' Interaction through Language Exchange

千葉大学国際教養学部　**西住　奏子**

NISHIZUMI Kanako

(College of Liberal Arts and Sciences, Chiba University, Japan)

キーワード：Language exchange、学生交流

１．はじめに

千葉大学は、2014 年に文部科学省の「スーパーグローバル大学創生支援事業」に採択されて以降、学生のグローバル対応力育成のための体制強化や国際化を目指し、様々な取り組みを実施している。2018 年度には約 2,000 人の留学生が千葉大学で学び、約 1,000 人の千葉大学生が海外留学を果たした。海外協定大学に関しても、2019 年 3 月 5 日現在 314 協定を数える。大学間協定大学からの交換留学生を受け入れるプログラム J-PAC（Japan Program At Chiba）も、この 4 月に 2019 年度春期生を新たに迎え、参加学生数が年間 100 名を超えた。最近では、国際社会で活躍できるグローバル人材のさらなる育成に向け､学生の｢全員留学｣を柱とした新たなプラン｢千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”｣が 2020 年度より始まることが発表されたところである。夏期や春期に参加できる海外派遣・受入ショートプログラムも充実し、学生交流が益々盛んになっていくことが期待される。筆者は留学生対象の日本語科目を担当する日本語教師で、それと同時に J-PAC の運営をはじめ、言語的文化的背景の異なる学生たちが共に学ぶ協働学習科目を英語、日英語併用で開講したり、日本語科目に日本人学生がボランティアとして参加するプログラムを担当したりするなど、学生同士の活発な交流を促す取り組みに携わっている。大学が提供するこのような機会を積極的に活用し、異文化・多言語交流を図り、国際的な経験を積んでいく学生も多いが、一方で、なかなか日本人学生と知り合えない、友達ができないと相談にくる留学生も少なくない。また、英語テストのスコアが思うように伸びず、希望する大学

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

への留学を断念したり、英語圏以外の海外協定大学への派遣が決まったものの、派遣先で必要となる現地の言語の事前学習の仕方がわからないと相談に来たりする学部学生も多い。

このような現状を日々目の当たりにし、なんとか状況を改善できないかと考え、語学の自律学習を通して学生交流が図れるプログラム「LEX（Language Exchange）」を 2017 年度より開始した。本稿では、LEX プログラムの運営と参加学生の声、そして今後の課題について論じる。

２．LEX（Language Exchange）プログラムについて

２．１．実施方法

LEX（Language Exchange）プログラムは、希望する学習言語を母語・母国語とするランゲージ・パートナーとともに学習計画を立て、互いのニーズに合った内容で言葉や文化を教え合い、対等に学び合うことを目的としたプログラムである。筆者は、学外研修でフィンランド・ユヴァスキュラ大学に滞在した際、当大学が開発した語学の自律学習を促す取り組み Each One Teach One（EOTO）[1]について聞き取り調査を行った。それをもとに、千葉大学ではどのような形で実施できるか検討し、2017 年度春学期より、千葉大学 English House[2]の英語教員 1 名、事務スタッフ 1 名と協力して始めた。EOTO は全 40 時間、つまり相互に 20 時間ずつ教え合うことで単位取得できる選択科目で、事前にパートナーを自分自身で見つけ、担当教員と面談し学習計画を立てた上で履修登録をするが、LEX は単位を出さない 10 週間のプログラムで、週 1 回パートナーと会い、30 分ずつ教え合うこととした。申込用紙に氏名、所属学部等の基本情報の他、以下の６項目を記入してもらい、申し込みのあった学生・教職員を LEX 担当教員が語学レベルや学習目的を考慮してペアを作っている。

・母語・母国語・流暢に話せる言語
・学びたい言語の第一希望と第二希望
・学びたい言語のレベル（自己申請による）
・簡単な自己紹介（日英語で）
・LEX への参加希望理由
・LEX で学びたいこと（選択肢 speaking, listening, reading, writing, grammar, vocabulary, pronunciation, other e.g. culture を設け、詳細は自由記述欄に書ける形式となっている）

募集に関しては、English House 内掲示板やホームページで、また留学生課 International Support

[1] ユヴァスキュラ大学の実施する EOTO に関する情報は、次のホームページを参照されたい。https://kielikeskus.jyu.fi/eoto/en
[2] 千葉大学 English House に関する情報は、次のホームページを参照されたい。http://www.chiba-u.ac.jp/englishhouse/

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

Desk（ISD）[3]の協力を得て国際教育センター[4]で開講する日本語科目や掲示板、ホームページ等で行っている。事前にペアを作るのが難しそうだと判断した場合、つまり学習希望者が極端に多い言語があった場合や、学習希望者がいるものの、その言語が教えられる母語・母国語話者からの申し込みがないとわかった場合は、学生ポータルや大学ツイッターにも情報を掲載したり、学生に該当言語の母語・母語話者の紹介を依頼したりするなどして、全学の学生・教職員に情報を広く行き渡らせ、なるべく多くのペアが成立するよう努めている。

LEX プログラムの運営および実施に関する主な流れは以下の通りである。

1. 4 月・10 月にポスター・チラシで募集を行い、5 月・11 月に最初の「説明会」を実施後、10 週間の予定でプログラムを開始する。
2. 教員がマッチング作業を行い、ペアを決定する。学生が希望すれば、１人で２人のパートナーと LEX をすることができる。３人一緒ではなく、パートナーとそれぞれ個別に LEX を行うことを条件とする。
3. English House 事務スタッフが、パートナーが見つからなかった場合も含め、ペア決定のお知らせを個別にメール連絡する。
4. 最初の「説明会」でプログラムの特徴や目的、オンライン教材の紹介を行い、ペアとの顔合わせを行う。毎週会う曜日と時間を決め、大まかな学習計画を立てるよう指示する。毎回の LEX は基本的に English House で行うことを確認する。
5. ５週目に「Trouble shooting ミーティング」を実施、LEX の取り組みを同じ言語を教え合う他ペアと共有したりアドバイスし合ったり、うまくいかない点を教員に相談できる時間を設ける。その後の LEX がより充実した取り組みになるよう話し合うこと、情報共有することが目的である。
6. 10 週目に「反省会」を実施し、ペアの取り組みの振り返りと、アンケートを実施する。

LEX 参加者全体で会えるのが最初の「説明会」と最後の「反省会」のみであるため、なるべく多くの学生が参加できるよう、開催は遅い時間帯である６時限（17:50-19:20）に設定している。説明会でパートナーと会えなかった場合は、English House 事務スタッフがメール連絡で通知することで個別に対応している。

２．２．参加者と学習言語

[3] 千葉大学 ISD に関する情報は、次のホームページを参照されたい。
http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/index.html
[4] 千葉大学国際教育センターに関する情報は、次のホームページを参照されたい。https://cie.chiba-u.ac.jp/
LEX プログラムに関しても次のページで紹介している。https://cie.chiba-u.ac.jp/exchanges.html

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

表１：学期ごとの LEX 参加者数

	留学生	日本人学生	参加者合計
2017 春	48	57	105
2017 秋	53	65	118
2018 春	55	74	129
2018 秋	93	93	186
2019 春	69	72	141

LEX プログラムへの参加者数は、上述の表１に示すように学期を追うごとに増えている。右端の参加者合計を確認すると、LEX を始めた 2017 年度春学期は 105 名と 100 名を少し超える程度であったが、2018 年度は 129 名、2019 年度は 141 名と少しずつ増えている。秋学期に関しては、2017 年度は 118 名とその年の春学期と比べても微増に留まったが、2018 年度には 186 名と 200 名に迫る参加者数となった。

そして、参加者の学習言語数と学習言語の内訳は、以下の表２に示す通りである。毎学期希望が多いのは留学生からは日本語であるが、日本語以外にも韓国語や中国語に興味のある欧米系の学生や、英語を希望するアジア系の学生も少なくない。そのようなわけで、LEX をするペアは必ずしも日本人学生と留学生ではなく、留学生同士ということもあり得る。また、日本人学生からは英語、次いで中国語の学習希望が多いが、千葉大学の協定大学の多い国の言語であるドイツ語やフランス語、フィンラ

表２：学期ごとの学習言語数と内訳

	学習言語数	学習言語内訳
2017 春	13	日本語・英語・中国語・韓国語・タイ語・ベトナム語・マレーシア語・スペイン語・フィンランド語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・アラビア語
2017 秋	10	日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語・スペイン語・フィンランド語・フランス語・ドイツ語・ギリシャ語
2018 春	12	日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語・スペイン語・イタリア語・フィンランド語・フランス語・ドイツ語・ギリシャ語・ロシア語
2018 秋	13	日本語・英語・中国語・韓国語・モンゴル語・タイ語・インドネシア語・スペイン語・イタリア語・フィンランド語・フランス語・ドイツ語・ロシア語
2019 春	14	日本語・英語・中国語・広東語・韓国語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語・スペイン語・イタリア語・フィンランド語・フランス語・ドイツ語・ロシア語

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ンド語、インドネシア語、タイ語も、毎学期、学習希望が少なからずある。K-POP 人気の影響や、韓国の協定大学が主催するショートプログラムに興味を示す学生の増加に伴い、韓国語学習希望者も学期を追うごとに増えていっている。

ここで特筆すべきは、LEX の最大のメリットのひとつとして、千葉大学で開講科目のない言語、つまりベトナム語、マレーシア語、フィンランド語、ポルトガル語、ギリシャ語、モンゴル語、インドネシア語も、学生たちは LEX を通じて学ぶ機会が得られるということである。実際、参加学生が応募時に書く LEX プログラムへの参加理由に、この点を挙げる学生もいる。一方、問題点としては、英語での LEX を希望する学生が多いものの、英語母語話者である留学生が非常に少ないという点と、LEX 参加を希望する中国・台湾からの留学生が最も多いものの、LEX での中国語学習を希望する日本人学生の人数を十分に確保できない点が挙げられる。申し込み時に、英語を流暢に話せる得意言語として挙げた学生で、LEX 担当英語教員が認めた学生は、英語母語話者でなくても英語での LEX を認めたり、中国語教員に授業での LEX 周知を依頼したりするなどして対応しているが、参加学生の学習希望言語を話す人材の確保と、そのための幅広い声かけの徹底を今後の課題として捉えている。

２．３．LEX 参加学生の声

LEX ではプログラム終了時に、参加学生へアンケートの記入をお願いしている。Part 1 では氏名、学部、学習言語等基本的な情報を、Part 2 では LEX session について、いつどこでどのぐらいの頻度でパートナーと会い、何語で行ったかという情報を、Part 3 では LEX で言語を学ぶことについて、言語を教えることについて、モチベーションについて、授業時のような教員の指示なくペアで語学学習に取り組むことについて、文化理解の側面について、最後に LEX プログラム全体の運営について問い、主に自身の取り組みについて振り返ってもらっている。

毎学期のアンケートで、参加学生からの評価が高いものに以下の５項目がある。

１． 概して LEX は自身の語学学習に役立つプログラムである。
２． LEX は興味深い取り組みである。
３． 学習言語について十分に学べて、満足している。
４． 友人に LEX 参加を勧めたい。
５． できれば今後も LEX に参加したい。

具体的な学生の声としては、

・「疑問に思ったことをその場で質問でき、何が学びたいというのも選べたので自分のペースで勉強で

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

きた。」

・「毎週 LEX のためにパートナーと会うのが本当に楽しみだった。言語だけにとどまらず、ドイツの文化についていろいろ話が聞けたのもよかった。そして何より LEX を通してパートナーとよい友達になれたことが嬉しい。友達同士でお互いの言語を教えて、学び合えるのはとても有意義なことだと思う」

・「フィンランドに８月から１年間留学するため、フィンランド語を学びたいなと思っていました。LEX では優しいパートナーに恵まれ、挨拶・自己紹介フレーズ、感情を表す単語、スーパーの商品の単語、発音方法や文化、訪れるべき場所など様々のことを学べました。」

・「I like that the programme enables one to meet new people and learn a different language not only during the programme but also because you can set it up as a Tandem even afterwards. Finding Tandem-partners otherwise can be quite difficult.」 （Nishizumi & Morikawa 2018）

といったものがあり、言語や文化が学べる機会となっているだけでなく、自分のペースで学べることやパートナーと友人関係が築ける点が LEX プログラムの満足度を上げているのではないかと分析できる。

一方、2019 年度春学期で LEX プログラムの実施５学期目を迎え、様々な問題点も見えてきている。本稿では、前回の 2018 年度秋学期に回収された 89 名からのアンケートを集計したものの中から、筆者が現在最も改善したいと考えている以下の２項目について取り上げたい。

１． 最初の「説明会」で学習計画を立てるのが難しかった。（表３参照）

２． 毎回の LEX の内容を決めるのが難しかった。（表４参照）

まず、１.の学習計画について、以下の表３からわかるように、パートナーとともに 10 週間の学習計画を立てることをとても難しい、あるいは難しいと感じた学生は全体の 89 名中 64 名（72%）で、難しくない、あるいは全く難しくないと感じた学生８名（9%）を大きく上回った。学生身分に注目する

表３：学習計画の作成について

	留学生	日本人学生	身分不明	合計
とても難しい・難しい	21	32	11	64
難しくない・全く難しくない	4	3	1	8
どちらとも言えない	8	2	7	17
回答学生数	33	37	19	89

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

と、とても難しい、あるいは難しいと感じた留学生は全体の 33 名中 21 名（64%）であるのに対して、日本人学生は全体の 37 名中 32 名（86%）に上っている。これは例年見られる傾向で、日本人学生からのほうが､｢学習計画を立てるのが難しかった｣｢もっと日本語の教え方を先生に教えてほしかった、教え方のヒントがほしかった｣といった声が大きい。

また、２.の毎回の LEX の内容決定については、以下に示す表４からわかるように、合計を見ると、とても難しい、あるいは難しいと感じた学生は、全体の 89 名中 47 名（53%）と半数に上り、難しくない、あるいは全く難しくないと感じた学生は 22 名（25%）、どちらとも言えないと回答した学生は 20 名（22%）となった。しかし、学生の身分別に内訳を見てみると、とても難しい、あるいは難しいと感じた日本人学生は全体の 37 名中 24 名（65%）で、留学生全体の 33 名中 14 名（42%）よりやはり多い。こちらも、留学生より日本人学生のほうが「毎回、パートナーのニーズに合った日本語を教えるのは難しかった｣｢日本語について自分も知らないことが多く、興味深かったが、毎回説明するのに苦労した｣といった声が多い結果となった。

フォローアップ・インタビューやアンケート内のコメント欄に記入された参加学生の声から、これらの原因を解明しようと試みたが、まだ明確な回答は得られていない。しかしながら、一部の参加学生から、留学生は留学前に国の大学ですでにタンデム[5]の経験があったり、英語以外にも日本語学習の経験があったりするからではないかとの声があった。確かに、日本人学生は、タンデムの経験がなく、第２外国語学習を始めてから日の浅い学生がほとんどである。このような、学生の語学学習に関する背景が項目１.および２.の回答に反映している可能性が高いと思われる。全く習ったことのない言語を LEX で始める学生も少なからずいる。そのような学生の戸惑いや不安を解消し、LEX における様々な自律学習の方法を提案すべく、今学期は、より詳しく参加学生の取り組み内容を聞き取り調査

表４：毎回の LEX の内容決定について

	留学生	日本人学生	身分不明	合計
とても難しい・難しい	14	24	9	47
難しくない・全く難しくない	10	8	4	22
どちらとも言えない	9	5	6	20
回答学生数	33	37	19	89

[5] タンデムとは 1960 年代後半にフランス・ドイツで始まったと言われる外国語学習方法のひとつで、母語の異なる２人がペアになり，互いの得意な言語や文化を学びあうという学習形態のことである。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

し、教え方アイディア集のようなものを作成したいと考えている。そして、来学期の最初の「説明会」で紹介し、効果を検証したい。自分自身とパートナーのニーズに合った学習計画が立てられ、毎回の学習内容が充実していけば、よりよい交流につながると考える。

３．終わりに

以上、本稿では、筆者が取り組む語学の自律学習プログラム LEX について紹介した。改善すべき点は少なくないものの、概ね軌道に乗り、参加者数も増えてきている。今後、運営についてもプログラムの単位認定やスタッフの増員等、検討していく必要があると考えているが、内容についてもより学生のニーズにあったプログラムにしていきたい。そして、自身の言語・文化を紹介することを強く希望する留学生や、海外留学や留学生との交流に興味を持ちながらも、なかなかその輪に入っていけない日本人学生に、１対１で対等に深い交流が図れる機会として、本プログラムを勧めていきたいと考えている。

参考文献

Nishizumi, K., & Morikawa, S. (2018). The Chiba University Language Exchange Programme: A Preliminary Report. *千葉大学国際教養学研究= Journal of Liberal Arts and Sciences, Chiba University*, *2*, 151-165.

Vassallo, M. L., & Telles, J. A. (2006). Foreign language learning in-tandem: Theoretical principles and research perspectives. Aprendizagem de línguas estrangeiras in-tandem: Princípios teóricos e perspectivas de pesquisa. *The ESPecialist*, *27*(1), 83-118.

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.